

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
 - 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
 - 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）
- 育てたい生徒像 “3つのC”
- 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
 - 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
 - チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上

(1) 新教育課程に基づいた教育活動

ア 新学習指導要領に基づく学習指導、学習状況評価を行う。

(2) 確かな学力の育成

ア 基礎学力を身につけるための山田BT（ベーシック・タイム10分間の朝学習）を継続発展させる。

イ 授業での取組み及び山田BT等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。

家庭学習時間が0分の割合を令和8年度には7%未満とする。(R3 8%, R4 14%, R5 12%)

ウ 論理・表現I及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。

エ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。

図書館の利用人数を令和8年度には4000人以上とする。(R3 2197人, R4 3068人, R5 3357人、)

オ 地球規模の課題SDGsをテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。

(3) 授業力の向上

ア 授業充実PTを核に全教科で「ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内のICT環境（電子黒板・1人1台端末）を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。

生徒自らが考える授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、判断、表現）の向上を図る。

※研究授業・公開授業の実施回数を、令和8年度まで引き続き年間10回以上とする。(R3 10回, R4 10回, R5 14回)

※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合について80%以上の水準を保つ。(R3 83.1%, R4 85.1%, R5 85.9%)

※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合について80%以上の水準を保つ。(R3 84.4%, R4 84.5%, R5 87.2%)

イ 校外研修の活用を進める。

ウ 希望進路を実現する。

※令和8年度まで、国公立大、関関同立大合格者数150人を維持する。(R3 186人(9クラス), R4 164人(9クラス), R5 225人(8クラス))

(4) 3年間を見通したキャリア教育

ア 大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。

※進路説明会・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。

イ 同窓会と連携したキャリア教育を実施する。

※卒業生によるキャリア講演会を実施する。

(5) グローバル人材の育成

ア 姉妹校であるBentleigh secondary college等との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。

ア 部活動加入率を、令和8年度には87%以上にする。(R3 85.4%, R4 85.0%, R5 85.6%)

イ 修学旅行を通じ、生徒の力を伸ばす。

(2) 生徒会活動の活性化

ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。

イ 学校生活における自治意識を高める。

(3) 生徒指導を進める

ア 遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。

イ 交通安全指導を継続する。

(4) 校内美化の推進

ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。

(5) 人権尊重の教育の推進

ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。

(6) 安全で安心な学びの場づくり

ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。

イ 教育相談・支援教育の充実：定期的なアンケート調査で生徒の状況把握に努め、生徒支援の充実を図る。

ウ 食物アレルギー、個別の課題への対応を進めることで、安全で安心な教育環境を作る。

(7) 自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒める場を作る。

ア 始業式・終業式等で、部活動の成果等を伝達表彰する。

イ HR・学年集会・授業等で、生徒の成長に資する取り組みを進める。

3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。

ア 各種会議、各学年の連携、組織的な対応がスムーズにいくようにする。

イ 安全衛生委員会の活性化により、働き方改革を図る。

<p>※超過勤務月間 80 時間以上の教員年間延べ人数を令和 8 年度には 30 人以下とする。(R3 20 人,R4 23 人,R5 :44 人)</p> <p>(2) 保護者・地域との連携 ア 地域の行事へ積極的に参加し、地域連携を深める。 イ PTA との連携により、生徒の成長を促進する。</p> <p>(3) 教育活動の情報発信 ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。 イ ホームページ、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 教育力の向上	<p>(1) 新教育課程に基づいた教育活動</p> <p>(2) 確かな学力の育成</p> <p>(3) 授業力の向上</p>	<p>ア・新学習指導要領に基づく学習状況の評価を行う。</p> <p>イ・授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。</p> <p>エ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。</p> <p>オ・SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。</p> <p>ア・ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内の ICT 環境を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。 また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。</p> <p>イ・校外研修の活用を進める。 ウ・希望進路を実現する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断における学習評価の肯定的回答 90%以上の維持。[93.8%]</p> <p>イ・山田 BT アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を減らす。[12%]</p> <p>エ・利用を促進し年間の利用者数 3000 人以上を維持する。[3672 人] ・貸出冊数 600 冊の維持 [718 冊]</p> <p>オ・生徒全員の主体的なレポート発表ができたか。 アンケートの肯定的割合 95%を維持[99%] 外部との連携ができたか。</p> <p>ア・ICT (電子黒板・1人1台端末) を効果的に活用した授業実践を継続する。 ・研究授業・公開授業を年間 10 回以上実施する。[17 回] ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合 80%以上を維持。 [85.9%] ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合 80%以上を維持。[87.2%] ・学校教育自己診断の「ICT 機器の活用」の肯定回答率 (以下、同様) について、教員・生徒とも 90%以上を維持。[教員 98.1%、生徒 99%] ・学校教育自己診断 (教員) の「学習形態の工夫・改善」「問題解決的な学習指導」の項目で 85%を維持。 [学習形態の工夫改善 88%、問題解決的な学習指導 86%]</p> <p>イ・校外研修への参加者があるか。 ウ・国公立大学、難関私立大合格者数を維持する。 [225 名]</p>	
	<p>(4) 3年間を見通したキャリア教育</p> <p>(5) グローバル人材の育成</p>	<p>ア・大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。 イ・卒業生、同窓会等と連携したキャリア教育を実施する。</p> <p>ア・姉妹校である Bentleigh secondary college 等との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。</p>	<p>ア・生徒・保護者向けの進路説明会や、学力生活実態調査・実力考査を実施。[計 7 回]</p> <p>イ・卒業生等によるキャリア教育の機会を各学年とも年 1 回以上持つ。 [1 回]</p> <p>ア・姉妹校の Bentleigh secondary college との交流を再開、別に英語を用いた交流 (メールやオンライン交流会) や、教科等での国際理解教育を実施する。 [交流できたか]</p>	
2 豊か か で た く ま	<p>(1) 部活動や特別活動を通じた豊かでたくましい人間性の育成</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化</p>	<p>ア・部活動への積極的な参加を促す。 イ・修学旅行を通し、生徒の力を伸ばす。</p> <p>ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。</p>	<p>ア・部活動加入率 86%をめざす。[85.6%] イ・修学旅行後のアンケートでの満足度 95%以上の維持。 [97.0%]</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上の水準を保つ。[94.4%]</p>	

しい人間性のはぐくみ	(3) 生徒指導を進める (4) 校内美化の推進 (5) 人権尊重の教育の推進 (6) 安全で安心な学びの場づくり (7) 生徒の成長の場を作る。	イ・学校生活における自治意識を高める。 ア・遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。特に長期休業あけの指導を強化する。 イ・交通安全指導を継続する。保護者、地域等と連携しながら、教員・生徒会による登校指導を実施する。 ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。 ア・生徒が様々な立場の人々の人権を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。 ア・いじめを許さない体制作り イ・教育相談・支援教育の充実 ウ・安全で安心な教育環境を作る。 イ・生徒の成長に資する取り組みを進める。	イ・生徒会執行部発信の取り組みがあったか。 ア・遅刻総数前年度より減少させる[773人] ・服装・頭髪違反者なし イ・交通マナー（規範意識）の状況（日々の登校状況、地域からの意見）、事故の未然防止。 ・登校指導の実施（PTA、地域等と連携） ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率80%以上の維持。[75.4%] ア・毎日の清掃活動が徹底できたか。特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化ができたか。 ・終業式後等に一齐に大清掃（年3回）を行う。 ア・人権研修会を年1回以上実施する。生徒の理解の状況（アンケートで把握）。 ア・いじめ事案の未然防止、生徒対応ができたか。 イ・生徒個々の状況に的確に対応できたか。 ウ・校内での重大事故を無くす。 イ・学年独自の取り組みが行えたか。	
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	(1) 組織力向上: 常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する (2) 保護者・地域との連携 (3) 教育活動の情報発信	ア・各種会議、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。 イ・安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図る。 ア 地域の行事へ積極的に参加し、地域連携を深める。 イ PTA との連携により、生徒の成長を促進する。 ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。 イ・ホームページ、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。	ア・学校運営についての連携が取れているか。学校教育自己診断の連携項目75%以上の維持[71.1%] イ・部活動方針を遵守し、教員の負担感を減らす。ストレスチェックの健康リスク95以下の維持。[94] 超過勤務月間80時間以上の教職員延べ人数を対前年度比減する。[延べ44人] ア・地域教育協議会、地域行事に教員・PTA・生徒の参加を行う。[15回] ・学校行事に地域からの参加をえる。 イ・PTA と連携した行事を実施する。 ア・中学生・保護者に必要な情報を伝える学校説明会の実施ができたか。 アンケートでの満足度90%以上維持 [99.5%] イ・学校教育自己診断の連携、情報提供の項目が80%を維持できているか。[84%]	